

パラスポーツ マガジン

障がい者スポーツ & ライフスタイルマガジン

Vol.5

ブルーガイド・グラフィック

ボッチャ の魔法

カンタン! ボッチャガイド
誰でもすぐできる! ボッチャ体験レポート

クルマのある生活

最新運転補助装置事情 [ミクニドライブ&オート/ニコ・ドライブ]
トヨタの福祉車輛

熱ッ! 車いすバスケットボール

スペシャル・インタビュー 京谷和幸
車いすバスケット観戦ガイド

日本ブラインドサッカー協会の挑戦
2019年 注目のパラスポーツ競技会
日本初の知的障がい者女子ソフトボールチーム

車いすがくれた新たなチャンス
猪狩ともか(仮面女子)



下肢障がい者のための
手動運転装置を低価格で提供

5分で取り付け可能な ハンドコントロール

アクセルとブレーキにアタッチメントを装着するだけで、誰でも簡単に取り付け、取り外しが可能。操作も簡単で、片手でアクセルとブレーキができる

簡単にどんなクルマにも取り付けられ、コンパクトに折り畳めて容易に持ち運びが可能。しかも低価格で補助金で購入することができる。そんな夢のような手動運転装置が、ニコ・ドライブの「ハンドコントロール」だ。

取材・文/辻野 聡 text: Akira TSUJINO
写真/辻野 聡、ニコ・ドライブ photo: Akira TSUJINO, NIKODRIVE

ハンドコントロールとの 運命的な出会い

「障がい者の移動格差を解消したい。もっと低価格で、もっと簡単に取り付けられる手動運転装置を世に広めたい」との思いから、ニコ・ドライブが販売しているのが「ハンドコントロール」だ。

この製品の特徴は、10万8000円(税込)という低価格を実現していること、クルマを改造することなく簡単に取り付け

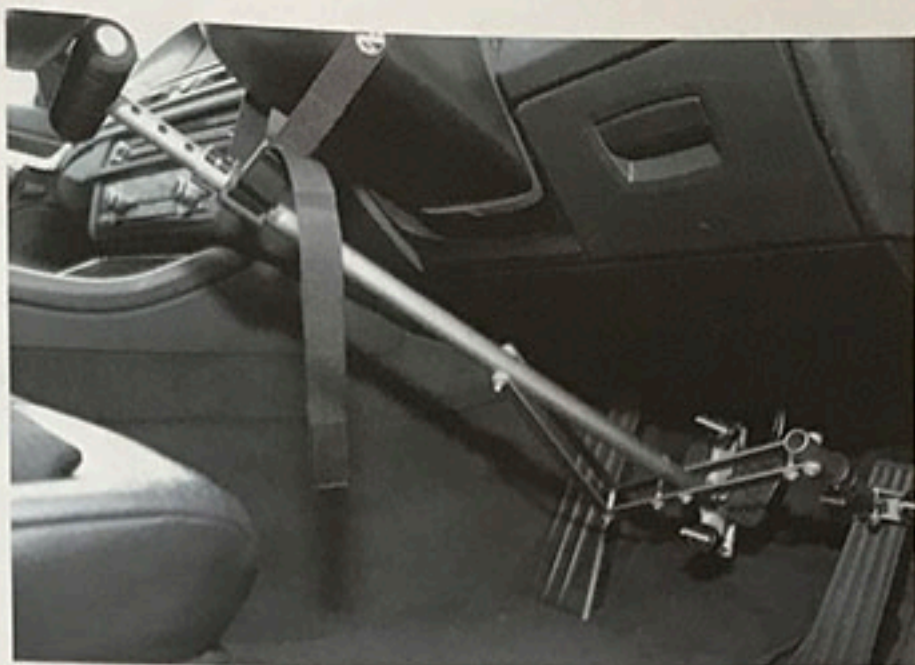
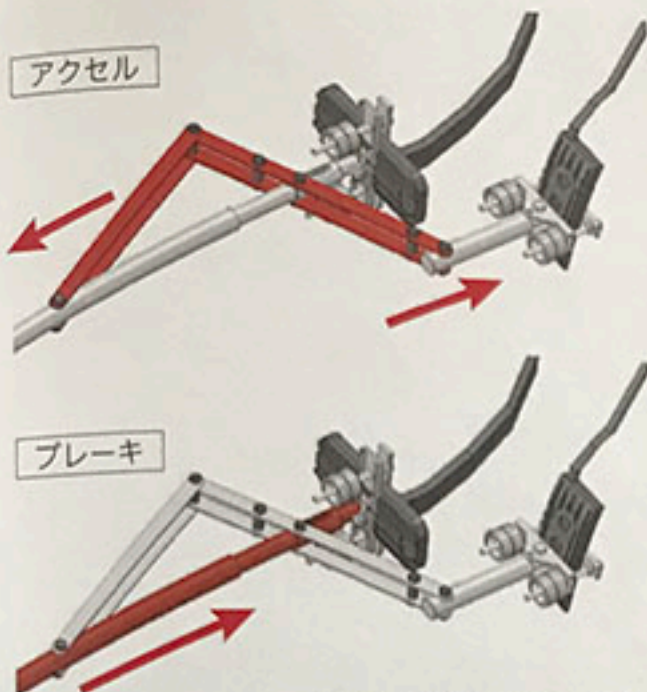


株式会社ニコ・ドライブの代表取締役社長、神村浩平氏。社名は、会社を立ち上げたときに最初にオフィスを置いたのが二子玉川(ニコタマ)だったのと、笑顔で運転できるようにとの願いから命名

けられるということ。取り付け時間は、わずか5分。車種を問わず、左ハンドル車にも取り付けることができる(一部不可)。

このニコ・ドライブの社長が、神村浩平さん。自身も16歳のときに交通事故で脊髄を損傷。車いすで生活している。

「私が若い頃は、クルマを改造して手動運転装置を取り付けて使っていました。よく考えられて開発されているので、クオリティが高くすごく使いやすい。しかし、備え付けなので取



操作方法はいたってシンプル。手前に引くとテコの原理でアクセルペダルを押し（左上図）、押すことでダイレクトにブレーキペダルに作用する（左下図）。むずかしい操作は必要ないので、誰でも比較的短時間で慣れることができるのも特徴。購入前に、無料体験、レンタルなどで試用することもできる

り外すことができず、他のクルマを運転することができない。パラスポーツの選手の場合は、海外でレンタカーが運転できないので不便です。また、改造したクルマは価値が下がり、二束三文でしか売れなくなってしまう。

私は車いすバスケでアメリカに留学した経験があるので、障がい者がクルマを改造しないで補助器具を使って運転することが普及していました。それにすごく感銘を受けて、日本で同じものがないか探してみると、あったんです。見つけた瞬間は興奮しました」

それは、大手自動車メーカーのエンジンニアだった荒木正文さんが作ったもので特許も取得していた。しかも、アメリカで見たアクセルとブレーキにそれぞれ一本ずつレバーを付けたものではなく、一本のレバーでアクセルとブレーキを両方操作できる、より使いやすいものだった。「それは、荒木さんがエンジンニアとして働いていたときに、障がいのある部下のために開発したものでした。定年退職後にインターネットで販売していた

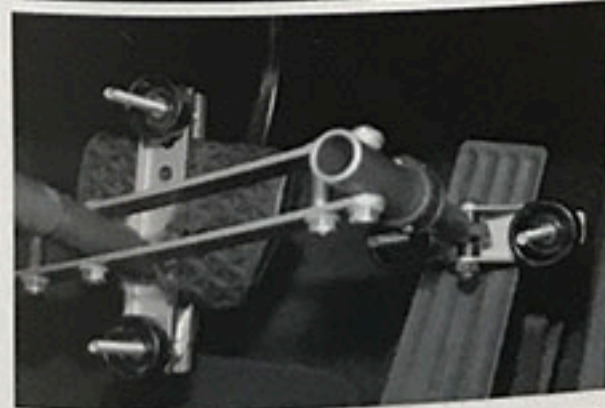
のですが思わしくなく、売ってくれる人を探していたんです。それを知ってすぐに連絡して独占的に売らせてほしいとお願ひしたら断られて、じゃあ在庫を全部買うから独占になりますよねと言って、全部買って、全部売り切った。それで、本格的にやらせてくださいと言いに行こうと思っていたら荒木さんから電話がかかってきた。ガンになって余命数カ月なので、残りの人生は妻と静かに暮らしたいから事業を譲ると言われたんです。それで会社を立ち上げて、ハンドコントロールの製造と販売をやることにしました」

インも何もされていない。そこで神村さんは、グリップを付けて握りやすくしたり、長さ調節をできるようにして適合する車種を増やすなど、少しずつ改良を加えていった。

教習所で使えるように 全国200カ所に営業

また神村さんは、ハンドコントロールを、障がい者が免許をとるために教習所で使えるように、そしてレンタカーで使えるように、働きかけた。

「教習所は、全国で200カ所くらい行きました。実際に障がい者が免許を取れるかどうか



長さの調節ができるので運転者の体格に合わせることが可能。取り付け可能なペダルサイズは、ブレーキ=縦130mm以下・奥行45mm以下、アクセル=横55mm以下・奥行45mm以下・ペダル厚み10mm以上



上/現在販売しているハンドコントロールのカラーは全4色。左からシルバー、ブルー、ピンク、オレンジ。シルバー以外は毎月5台限定 左上/コンパクトに折り畳むことができ、重量も約900gと軽量なので簡単に持ち運べる 左下/インターネットで福祉の用具を購入できるのがハンドコントロールの特徴

神村氏自身の車も、もちろんハンドコントロールを装着。今後は、シャフト内にスプリングを入れて、よりスムーズに操作できるようにした改良モデルの販売する予定。英語バージョンのホームページを作成し、海外への販売も視野に入れている



このほか、宅配を利用してお試しができたり、代金の分割払いができたり、使わなくなった場合の買取保証（半年以内）も行っている。これらはすべて、ユーザーからの要望を実現させたものだ。

ハンドコントロールを使った教習が受けられる。ハンドコントロールの体験や練習を行うこともできる。

の実証実験をしたり、耐久性などのテストを行ったり、使ってもらったためにさまざまなことを行いました。1年半くらいかかりましたが、現在民間の教習所で使われているシェアは、ハンドコントロールがナンバー1だと思います」

今、自動車業界では自動運転が話題だ。現実のものとなった場合、ハンドコントロールは不要になってしまうが、神村さんはそれでいいと言う。

「目的のための事業であるべきという信念があり、障がい者の移動格差を解消するという目的があって事業を行っていません。だから、何千万人の障がい者が便利になるなら、ハンドコントロールが不要になって会社がひとつなくなるくらい大した問題ではありません」

自動運転がいつ実現するかわからない。しかしそれまでは、ハンドコントロールが多く障がい者から必要とされ、クルマでの移動を可能にしてくれるのは間違いないだろう。



株式会社ニコ・ドライブ
神奈川県川崎市高津区坂戸3-2-1
かながわサイエンスパーク
☎044-712-7025
<https://nikodrive.jp>